

令和7年産水稻の作柄・品質に影響した要因の解析

【概要】

令和7年は6月第2半旬から出穂期頃まで高温で経過したため、水稻の生育が促進され、出穂期は全県で平年より2日早まりました。また、穂数やm²当たりの粒数は平年を下回りましたが、登熟期間中もやや温暖に経過し登熟が良好となったことで、収量は平年比99%と平年並になりました。なお、出穂後の気温は過去2年間より低く、白未熟粒の発生率低下などにより、1等米比率は96.6%（令和7年12月31日現在）と直近10年間の平均値を上回りました。

1 分けつ（茎）発生・穂数決定の特徴

令和7年は6月第2半旬からの高温で分けつの発生が旺盛になり最高分けつ期は平年より早まりました。しかし、平年では出現する第7葉の付け根（節）からの分けつが発生せず、平年では有効化率（穂になる割合）が高い第6葉の付け根から発生する分けつなどの有効化率も低くなり、穂数は平年を下回りました（図1）。

2 玄米品質の特徴

令和5年から令和7年は、いずれも夏季が高温となりましたが、その経過は異なっています。令和5年は出穂後も高温が継続し、白未熟粒発生による玄米品質の低下を招いたと考えられます。一方、令和7年は出穂後には高温が落ち着きリスクが低下したことに加え、m²当たりの粒数が少ないため登熟も良好に進んだことにより、1等米比率の向上につながったと推察されます（表1）。

3 次年度以降の対策

- (1) 安定的な収量を得るため、健苗育成、適正栽植密度での移植、ほ場での適切な管理により、茎数、穂数の確保に努めましょう。
- (2) 基肥、追肥の適量・適期施用により稲体窒素含量を適正に維持し、登熟期が高温の場合でも玄米品質を確保できる稲づくりに努めましょう。

表1 県内各市の出穂時期と玄米品質低下リスク

年次	市町村名	出穂期 ¹⁾ (月/日)			HD_m26 ²⁾		
		始期	盛期	終期	始期~	盛期~	終期~
2023	二戸市	7/30	8/01	8/03	15.4	15.4	20.5
	盛岡市	7/30	8/02	8/05	32.0	37.6	38.7
	北上市	7/29	8/02	8/04	41.3	42.3	43.1
	一関市	7/27	7/30	8/03	48.8	45.5	48.9
	久慈市	7/30	8/02	8/09	15.4	18.4	18.2
	宮古市	7/30	8/03	8/07	27.2	29.3	26.2
	大船渡市	7/26	7/31	8/08	33.0	26.7	27.0
2024	二戸市	7/27	7/29	8/01	0.9	0.9	0.4
	盛岡市	7/29	8/02	8/06	18.2	16.8	11.4
	北上市	7/30	8/02	8/05	30.0	28.6	26.2
	一関市	7/26	7/29	8/02	26.4	29.5	27.6
	久慈市	7/25	7/30	8/08	2.6	1.2	2.7
	宮古市	7/26	7/31	8/08	1.2	1.2	4.8
	大船渡市	7/26	8/01	8/08	12.7	10.9	7.9
2025	二戸市	7/25	7/27	7/30	6.0	6.0	4.3
	盛岡市	7/29	8/01	8/05	16.1	8.0	2.4
	北上市	7/29	8/03	8/06	20.9	17.2	14.7
	一関市	7/26	7/29	7/31	25.3	20.1	23.5
	久慈市	7/28	7/30	8/04	1.4	0.9	0.0
	宮古市	7/26	8/02	8/07	5.0	4.8	6.2
	大船渡市	7/28	8/02	8/09	10.5	15.8	15.8

1) 始期、盛期、終期:各市10%、50%、90%の水田が出穂期に達した日

2) HD_m26: 出穂後20日間の日平均気温から26℃を減じて積算したもので、高温による玄米品質低下のリスク評価に用いた(Ishigooka et al.2017, リスクは低(20未満)、中(薄赤: 20以上40未満)、高(赤: 40以上))

【試験データ等】

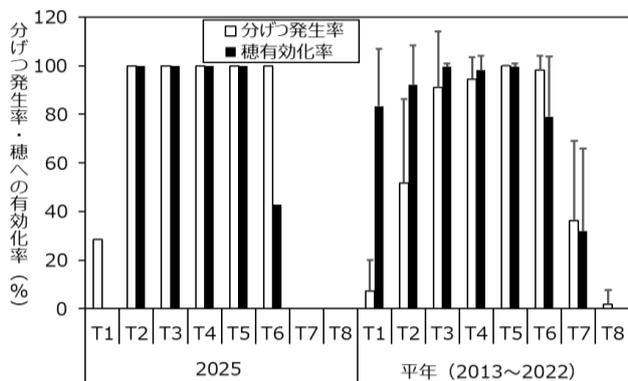


図1 2025年および過年次の節位別分けつ発生・有効化率（ひとめぼれ、5/15頃移植）

※ Tは茎が出現する葉の付け根（節位）を表す

【令和7年度成果】令和7年岩手県産水稻の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析（R7-指-03）